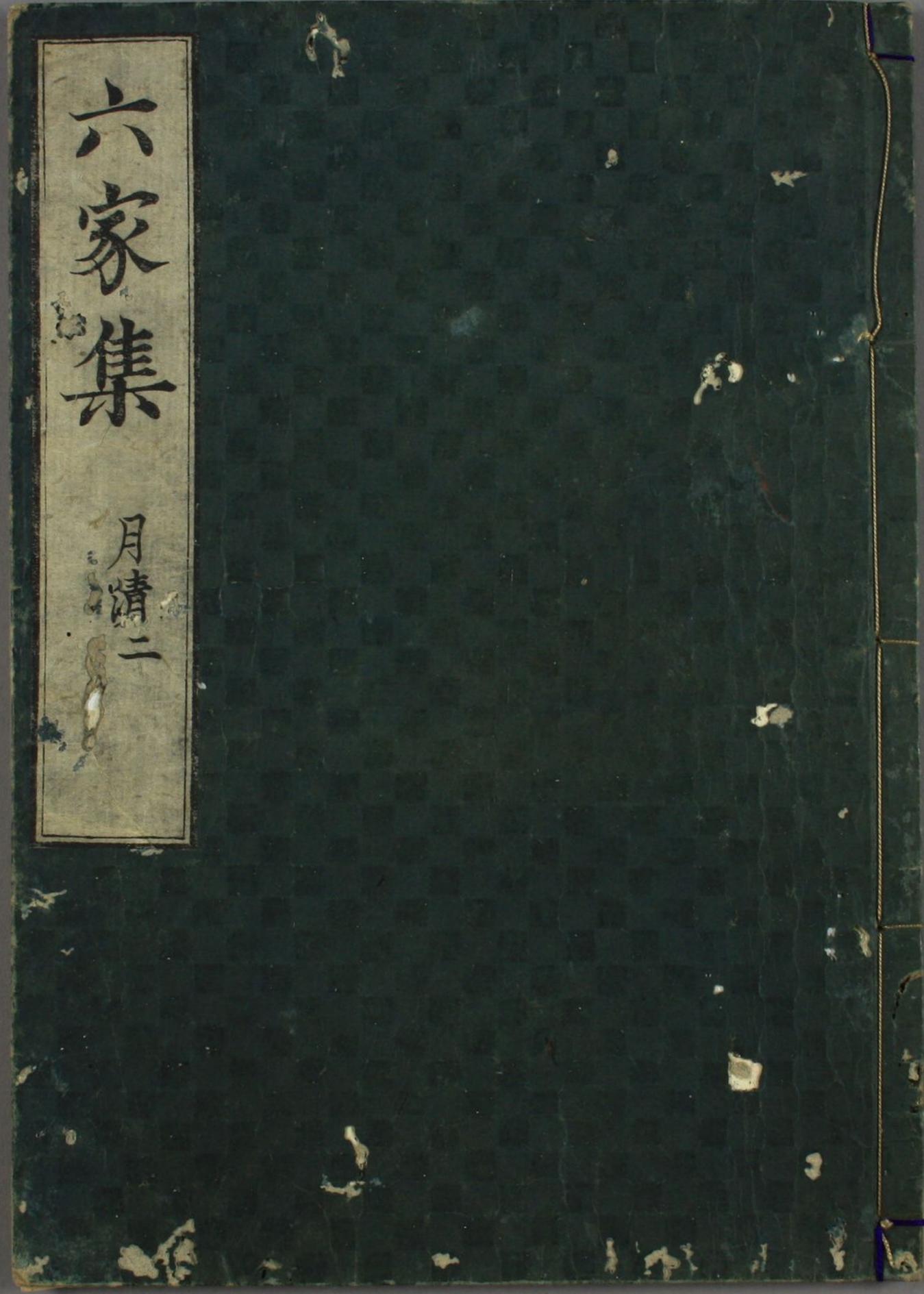




六家集

月清二



式部史生秋藤月清集二

南海漁父百首

表十五首

四方乃海河もを深きなりぬむはたしくもまきえん  
 去日野乃口のまの袖はぬきれもれ方の雲はらうか  
 くるはにやまははははららしくも霧はまよふまはら  
 那の原まはらや草は梅のむかふまきも浦風を吹  
 去乃文をむまよりの霧はらこむねる白くまきれし  
 けうのまは柳や霧はらまの海まよふまの地をり  
 海まよひの田舎はまのあふれぬまのまきも海はらまの  
 春の唯腫月まよひのまよふまの音まの海まよふまの山  
 今まよひのまよひのまよふまの海まよひのまよひの

新和撰

續古今























續後撰  
秋のうらみは此の事よ  
鳴野は後には下紫をひん  
みそさ川をさるるあしゆ  
秋のけしきもくささ六月にえ

同  
秋

風乃高きくわたり秋は龍田船  
ひびきをひききん  
七夕は待て秋の夜をまて  
きようさあつあつは  
萩乃葉よ吹かぬ乃秋を  
待て夜を待て秋は  
乱れ乃種じきの名は  
こり秋をききり秋は  
とさしてまひの夜  
よる城は南なる秋は  
これにたれ  
こ秋くく山乃夕くけ  
あささ秋はあまひく  
さるよとあぬ野余は  
虫とりれはさるこ  
さるさるあは  
や毎秋旅のきや初鷹は  
翅ようう秋の  
秋乃田乃いさく  
乃あのおゆせうり  
秋はひきき山乃秋

續後撰  
山りのあけのうらみ  
あはぬの満ち仲は  
あつさる  
あまうらみさるさ  
さるさるは月は  
秋はよもやらるん

續後撰

續古今

續拾遺

唐さばくよ照伸よ  
さ清て月は秋は  
秋風さる  
月かきよのりり  
人かこは秋は  
さるさるは  
三日月はをぬの  
えさるさる秋乃  
いよ秋はあはぬん  
わさるさるは  
秋は龍のさる  
里人秋打ん  
さるさるは  
さるさるは  
龍田川らあお  
葉乃けみでわ  
ゆさるは  
さるさるは  
秋はさる  
山乃さる  
又こは  
秋はさる  
さるさるは  
秋はさる

冬





ついでにふりかへりては  
志すはゆや大和流行の  
院芽三度百首

續拾遺

押さえてとるゝ葉のあはれ  
若みぬ川の志はらあはれ  
吉野山宮ちりつら  
時たあれまはれ七井初子の  
号の縁白ありつら  
はらつら新子の路は下  
野もよもあはれつら  
ついでにふりかへりては  
この國乃新のまはれ

續後撰

ついでにふりかへりては  
山梅のつらつら  
新子の路は下  
美川はむつら  
あはれの下は  
梅もつらつら  
ついでにふりかへりては  
折るもあはれ  
花はつらつら  
あはれはつらつら

夏









夏

ふたつと夏とてふもよの夏はのほけなれば  
里人の心むらさきもよの夏はのほけなれば  
都のささげの影にさすもよの夏はのほけなれば  
夕月山あはれもよの夏はのほけなれば  
るはらうの袖のあはれもよの夏はのほけなれば  
うらみもよの夏はのほけなれば  
君もよの夏はのほけなれば  
雲野野ほの初もよの夏はのほけなれば  
都のささげの影にさすもよの夏はのほけなれば  
ふたつと夏とてふもよの夏はのほけなれば

秋

秋の風とてふもよの秋はのほけなれば  
朝の人の心むらさきもよの秋はのほけなれば  
しるしの影にさすもよの秋はのほけなれば  
都のささげの影にさすもよの秋はのほけなれば  
夕月山あはれもよの秋はのほけなれば  
るはらうの袖のあはれもよの秋はのほけなれば  
うらみもよの秋はのほけなれば  
君もよの秋はのほけなれば  
雲野野ほの初もよの秋はのほけなれば  
都のささげの影にさすもよの秋はのほけなれば  
ふたつと秋とてふもよの秋はのほけなれば

冬

冬はのほけなれば





相好の園少きうかうらん乃とれぬ花の影

罽中む

くひのくもつたは別いさくの心乃とれぬ

湖上む

色はるの燈の影くちむは影の流井種け明

橋下む

わはし流はあは橋白ぬはくさくさむはるは

花下送目

うさしものあはあはくはあむじんけ世かきはる

庭前草む

まのりけ世は物る種より流り庭を流るるは

暮春惜花

さうひのふのふの袖の花の香をなはははあははは

初秋月

好いふあはははははははははははははははは

月前草む

まのりけ世は物る種より流り庭を流るるは

雨後月

深夜のくまはははははははははははははははは

松間月

ちのりけ世は物る種より流り庭を流るるは

山家月

月影のくまはははははははははははははははは

月前竹風

ひらりひらり月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

野宿月

けしきいそひひらりひらり月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

清き月

月へのひらりひらり月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

月前同鷹

こぼれちり月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

浦邊月

り秋月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

日照籠水

山人乃家... 日照籠水

杜回月

續

うららかなる月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

月前秋風

よのよの月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

の上月

旅人月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

月ありて

ねむる月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

月前同藤

さかすかの月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

旅泊月

さかすかの月待たせぬ秋のまじく 秋夜秋風

月前草露

秋の夜はほろほろと涼しくも哀しくも思ふ

菊籬月

月影のさす籬の菊は白くも赤くも花は

暮秋暁月

秋の暁月も涼しくも哀しくも思ふ

空のそら

空のそらも秋の空も思ふ

空の風

空の風も秋の風も思ふ

空の雨

空の雨も秋の雨も思ふ

空の草

空の草も秋の草も思ふ

空の木も秋の木も思ふ

空の島

空の島も秋の島も思ふ

空の鳥

空の鳥も秋の鳥も思ふ

空の魚

空の魚も秋の魚も思ふ

空の虫

空の虫も秋の虫も思ふ

空の雲

空の雲も秋の雲も思ふ

空の霞

空の霞も秋の霞も思ふ

新抄撰

續草

ワツゑはち和いあゝぬ

うゝあゝの

やうの長梅くまあゝぬ

果をる言

世中ハまゝ乃隣ニ成われんこと此の言ハ白言  
言極る言極よまゝハ魚ハ此の言ハ此の言ハ此の言

歳言

ゆゑに春の庭もさかえんや白川に  
家櫻哥念よ久しき懐

世中ハまゝ乃隣ニ成われんこと此の言ハ白言  
院於春日御社哥念三首内為葉と  
床乃の森本本はけりよまゝ吹く風は非はまなく  
小野文交合時ぬ

しゝきいゝとくれとんハ此の言ハ白言  
此の言ハ白言

